

瘠繫

日舍

十七

篇

原氏

籍為仰

鶴

序

劉貞函

梅

扇
嘆
日
舎
原
氏

十七編上



扇
嘆
日
舎
原
氏

第十七編上冊

倭紫

田舎

源氏

種彦作

國貞画



仙雀堂梓

倭紫田舎源氏第十七編

海嵐と鳥賊の形異なり物々画は寫しつゝ風雅なる
 章魚と河豚の画はさうとあつちふ西施乳はまじり悪き氣の
 そひてかゝる毒あつといふ心さうさ下丹魚をさるの類々佳有
 るとされども画くさまの羨艶く鮫鱈鰻鱧の羨味するも形と画く
 てその品々されり是れその味ひの画き難きを故りされば須廣明石ハ
 源氏最第一の巻るる是を悉画圖に寫さ海をの森ふを獨淋
 氣に事す外と都の女の彼所々の女をて歎くさるの最なる亮のさあも
 むとせ文章さるもその味ひとさえよハ写し難く章魚と河豚さるさる
 川波帯と岩根の事をあの巻中へ交着をさるる丹多の表紙と
 りかかゝるさる限條の二十葉を例の如く一折とるさるるん
 天保六年乙未正月四日
 柳亭種彦記

百七十一

光氏の年立源氏のどくるれが
須广の巻ハ廿六歳るれどろ
さしハ廿二歳の葵の巻と
廿一歳よひさわけささきの
巻ゆと又一年書つゆれが
今年廿四歳あり



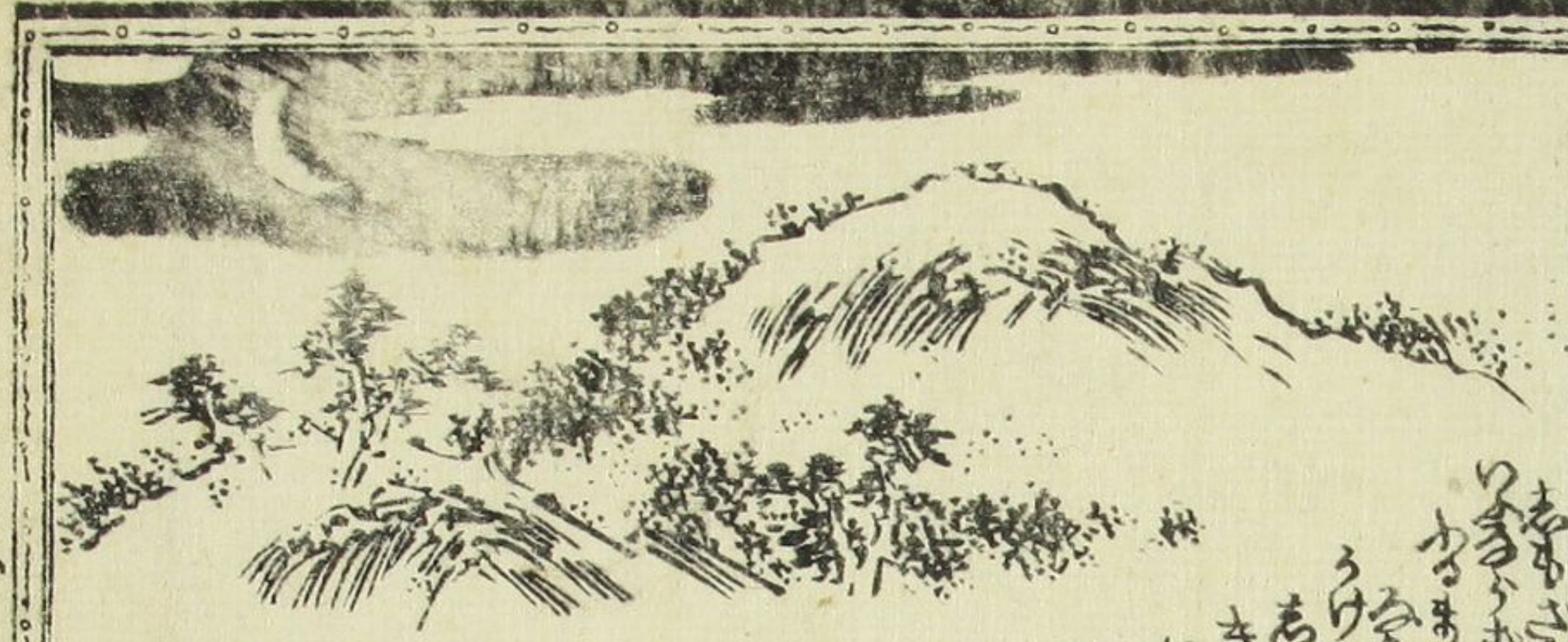
とく
す
も
あ
ひ
さ
わ
け
さ
さ
き
の
巻
と
又
一
年
書
つ
ゆ
れ
が
今
年
廿
四
歳
あ
り

源氏一七

山名持姿入道
宗入娘
朝秀



明石の上よ比

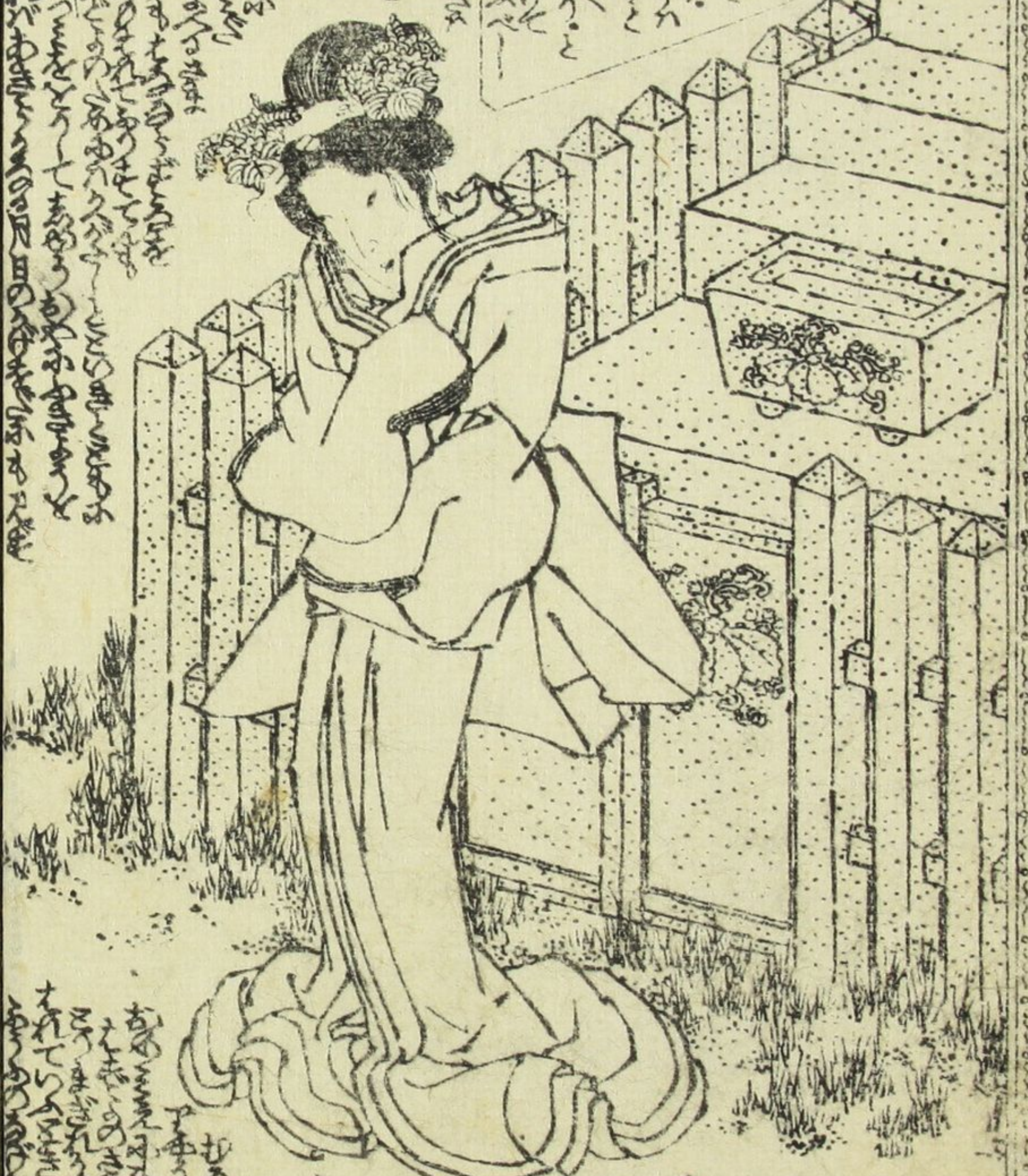


春の山は雪の残る
 山は雪の残る春の山
 雪の残る春の山は雪の
 春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の
 春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の



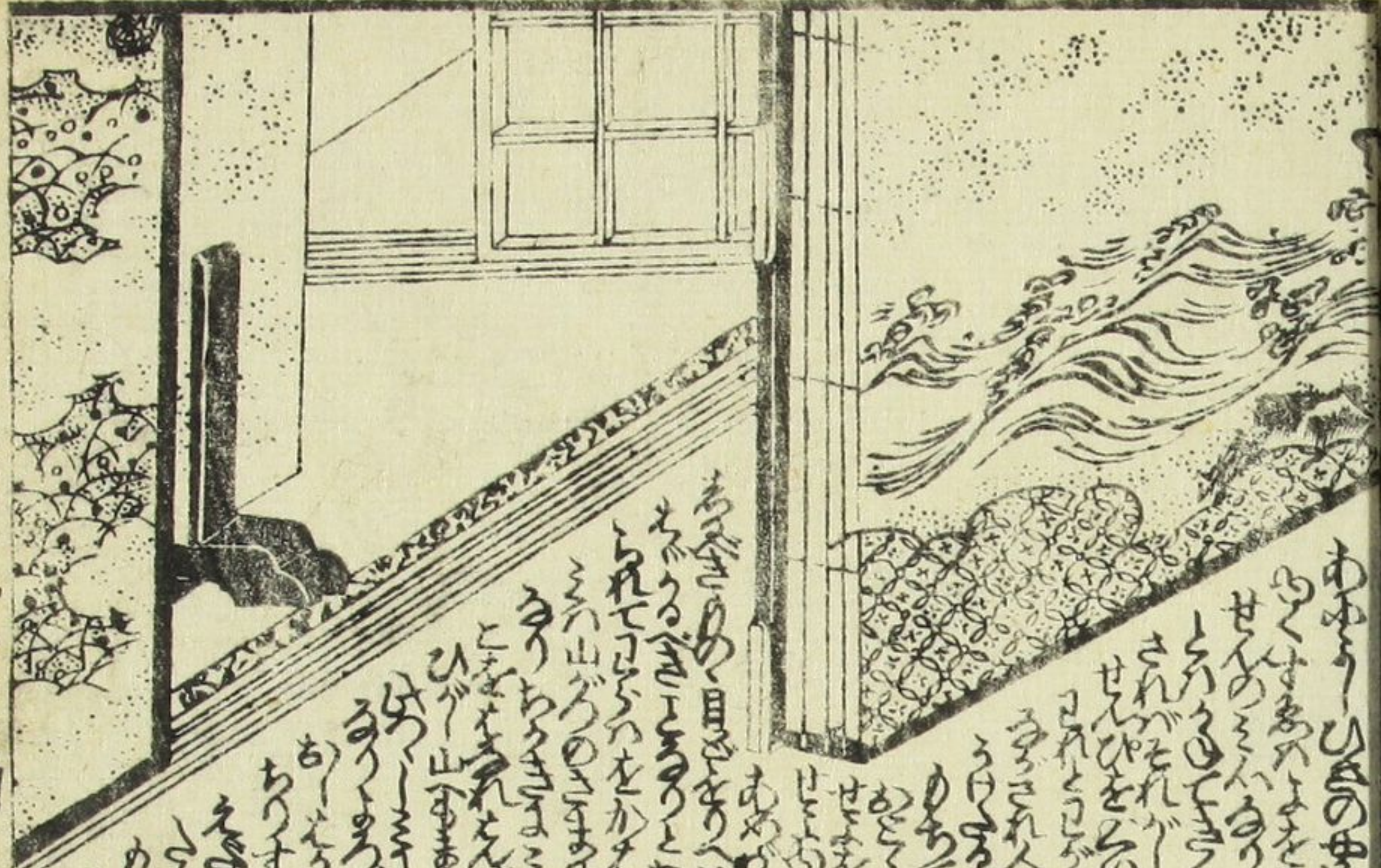
春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の
 春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の

春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の
 春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の



春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の
 春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の

春の山は雪の残る山は
 雪の残る春の山は雪の



此の物語は
 昔の物語に
 似て居るが
 其の趣意は
 異なるなり
 且つ其の
 人物もまた
 異なるなり
 故に其の
 趣意もまた
 異なるなり
 此の物語は
 昔の物語に
 似て居るが
 其の趣意は
 異なるなり
 且つ其の
 人物もまた
 異なるなり
 故に其の
 趣意もまた
 異なるなり

此の物語は

4



此の物語は
 昔の物語に
 似て居るが
 其の趣意は
 異なるなり
 且つ其の
 人物もまた
 異なるなり
 故に其の
 趣意もまた
 異なるなり
 此の物語は
 昔の物語に
 似て居るが
 其の趣意は
 異なるなり
 且つ其の
 人物もまた
 異なるなり
 故に其の
 趣意もまた
 異なるなり

此の物語は



源氏十七

Handwritten Japanese text in vertical columns, interspersed with the illustration. The text appears to be a commentary or a play on words related to the scene.

Handwritten Japanese text at the top of the right page, above the illustration.



Handwritten Japanese text at the bottom of the right page, below the illustration.

源氏十七



102

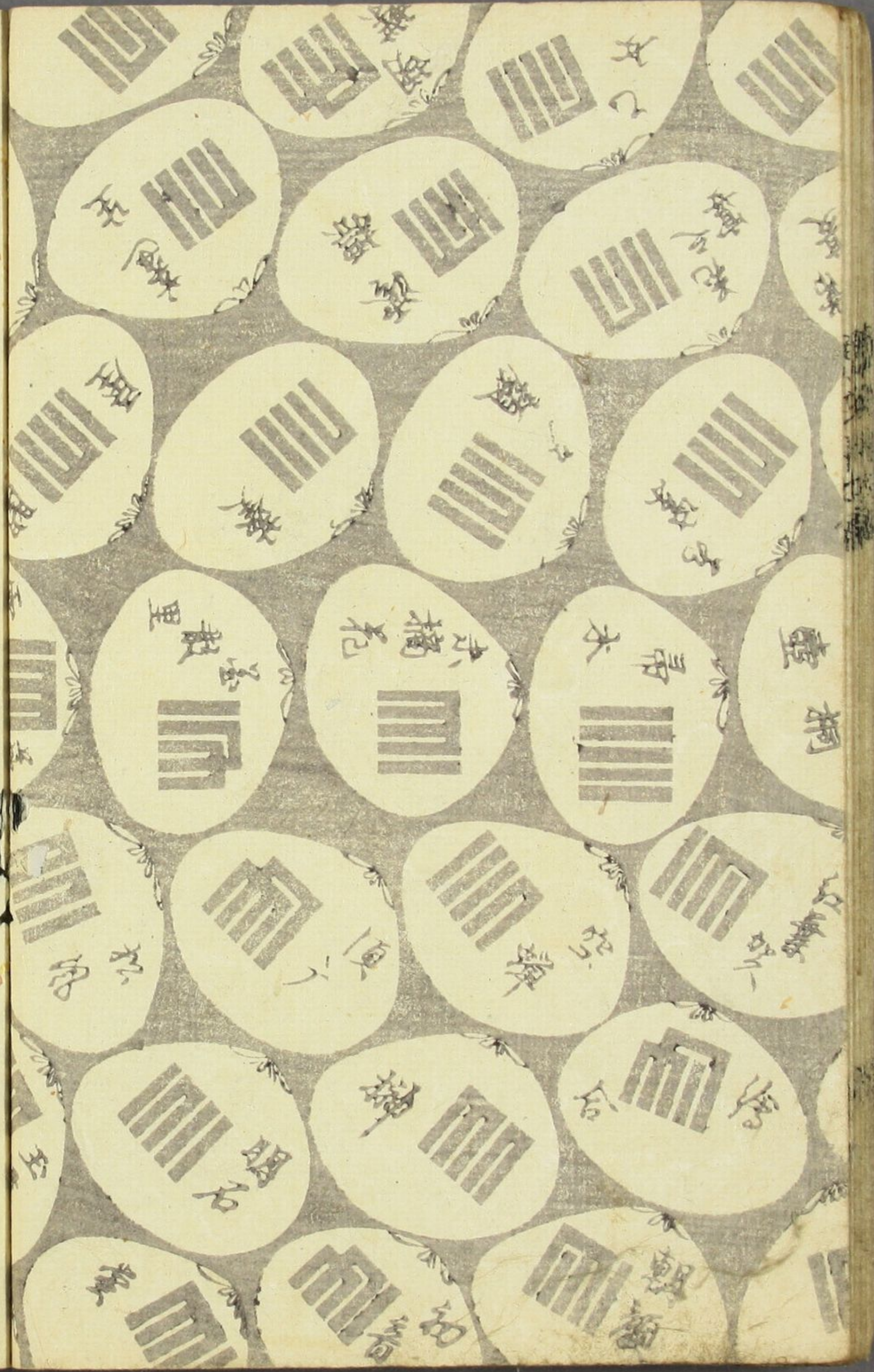
浦田一七

十七編下



仙力庵
製

種彦作
圖



種彦作 國貞画

田舎源氏

第十七編

天保六年乙未
孟陽發行書房
東都油町

鶴屋喜右衛門



源氏物語
田舎源氏
第十七編
種彦作
國貞画
天保六年乙未
孟陽發行書房
東都油町
鶴屋喜右衛門

源氏物語

十一

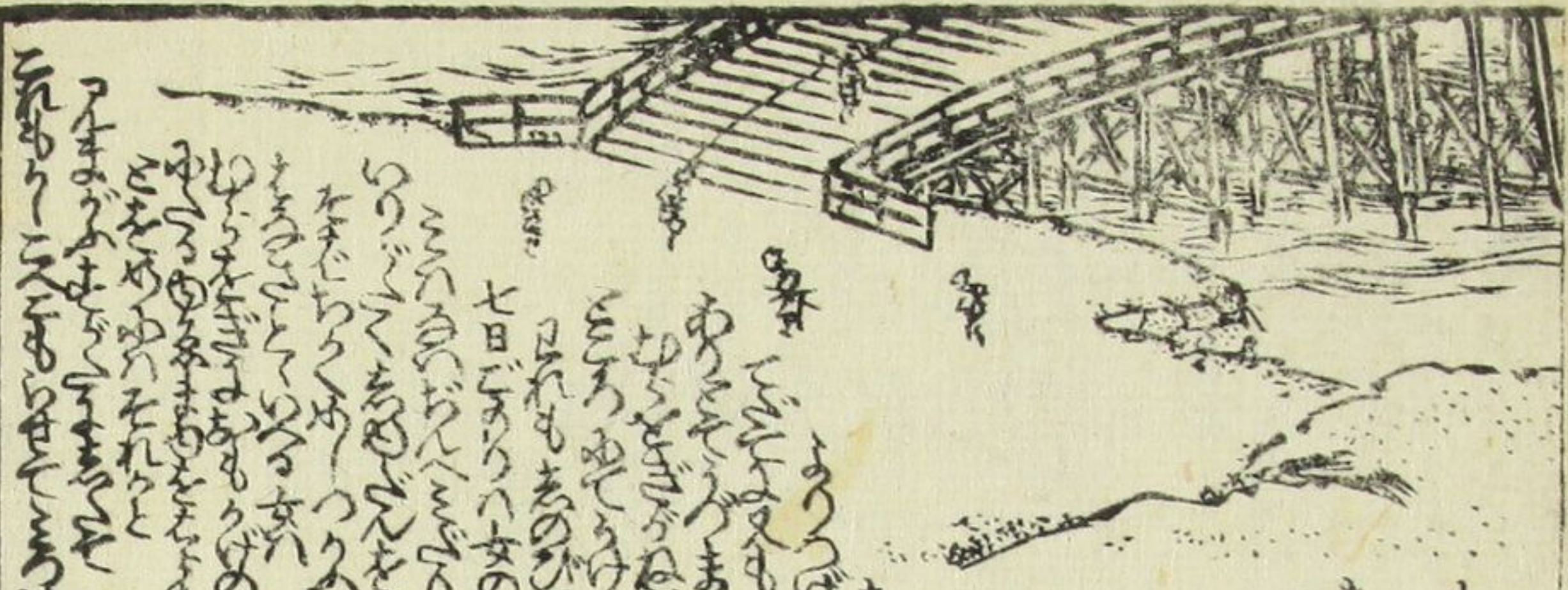
Handwritten text in the upper left section of the left page, consisting of several vertical columns of cursive Japanese characters.



Handwritten text in the lower left section of the left page, continuing the narrative or dialogue from the upper section.

源氏十編

111



Vertical handwritten text on the far left edge of the right page.

Vertical handwritten text on the far right edge of the right page.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, likely a chapter heading or introductory text.



Small handwritten text at the bottom of the right page, possibly a signature or a note.

Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page, continuing the narrative or providing commentary.



Small handwritten text at the bottom of the left page, possibly a signature or a note.



仙女

三の巻
 仙女の姿
 花の香
 松の影
 月夜
 静けさ

三の巻
 仙女の姿
 花の香
 松の影
 月夜
 静けさ

仙女の姿
 花の香
 松の影
 月夜
 静けさ

仙女の姿
 花の香
 松の影
 月夜
 静けさ

源田十七

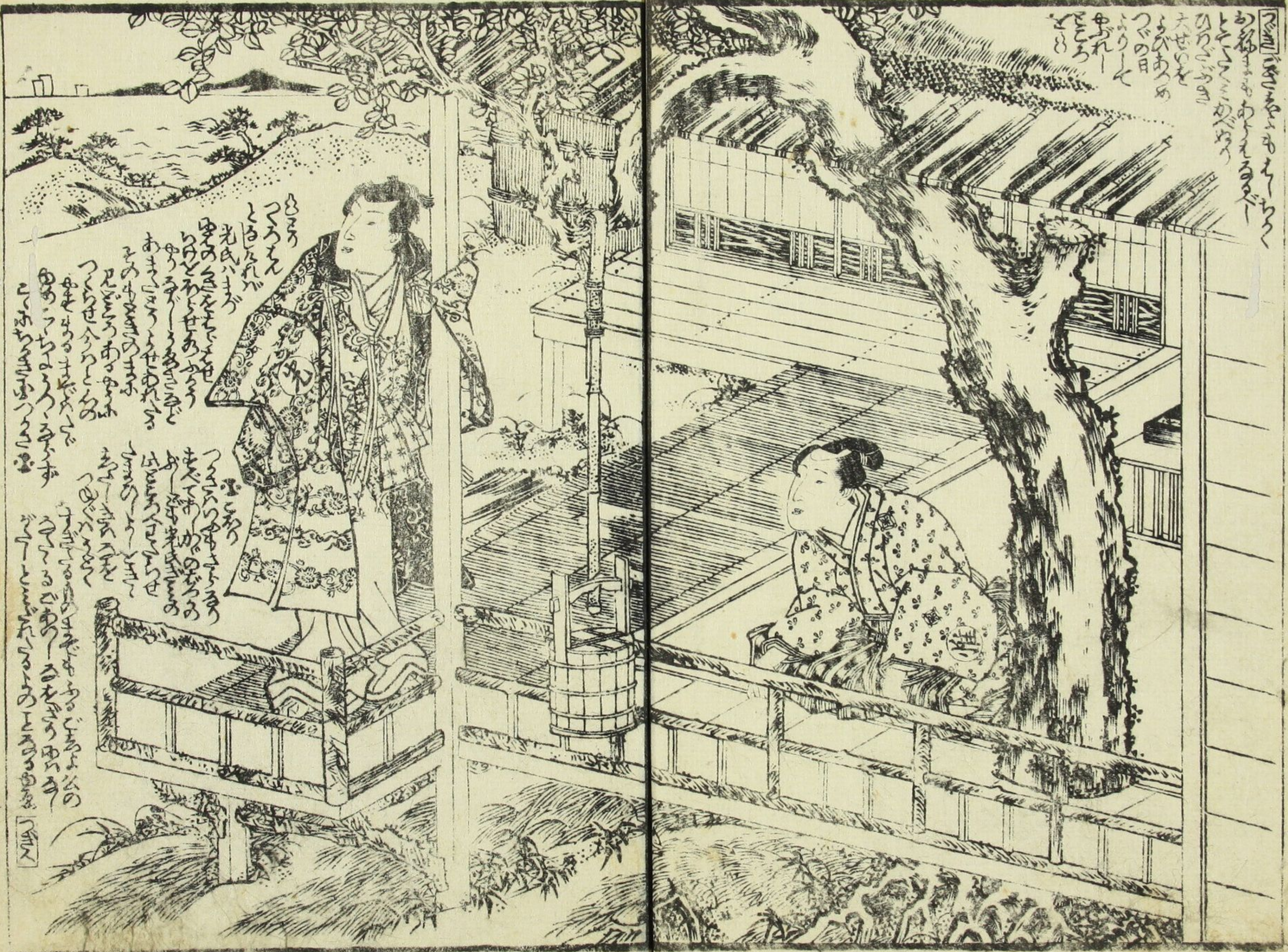
十一

仙女の姿
 花の香
 松の影
 月夜
 静けさ

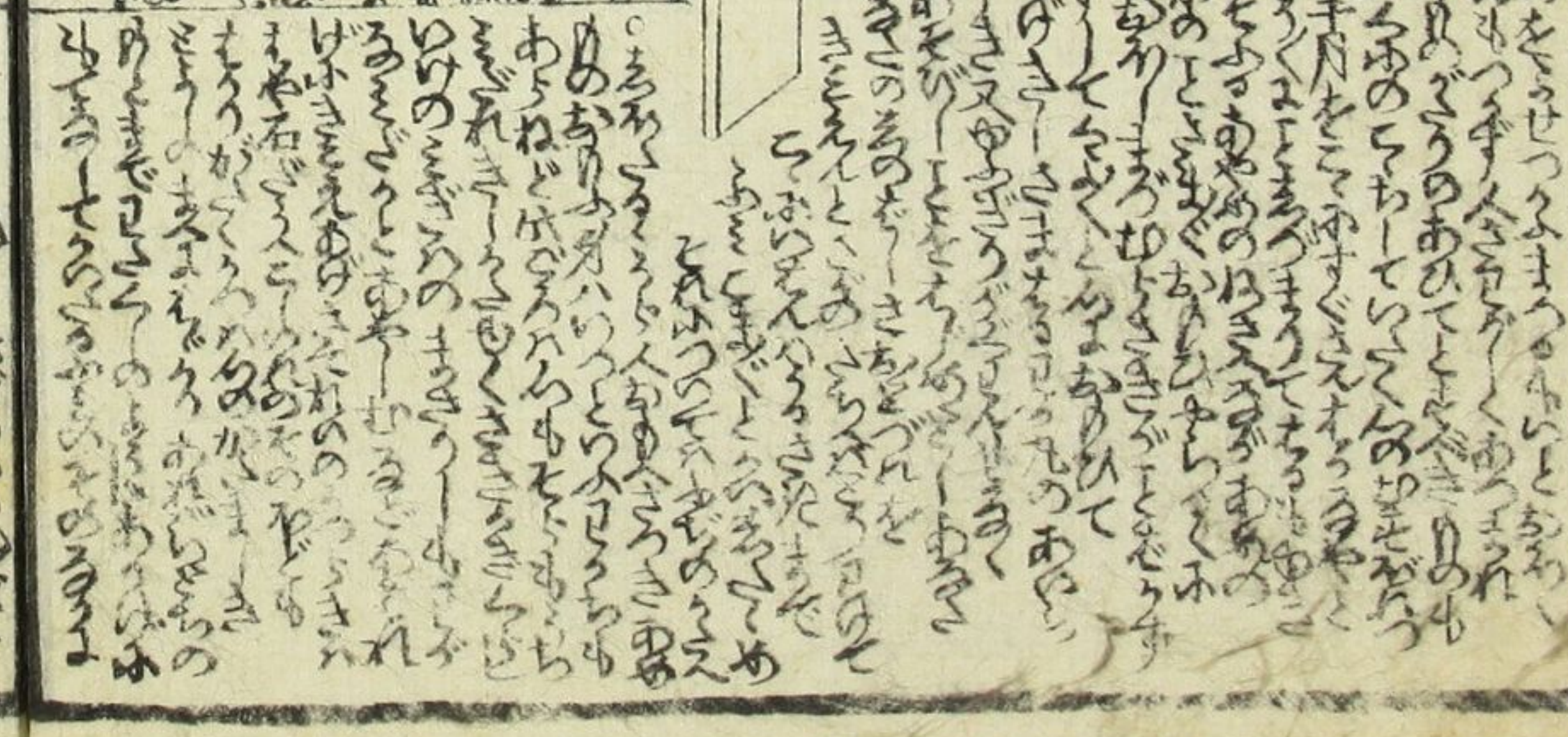
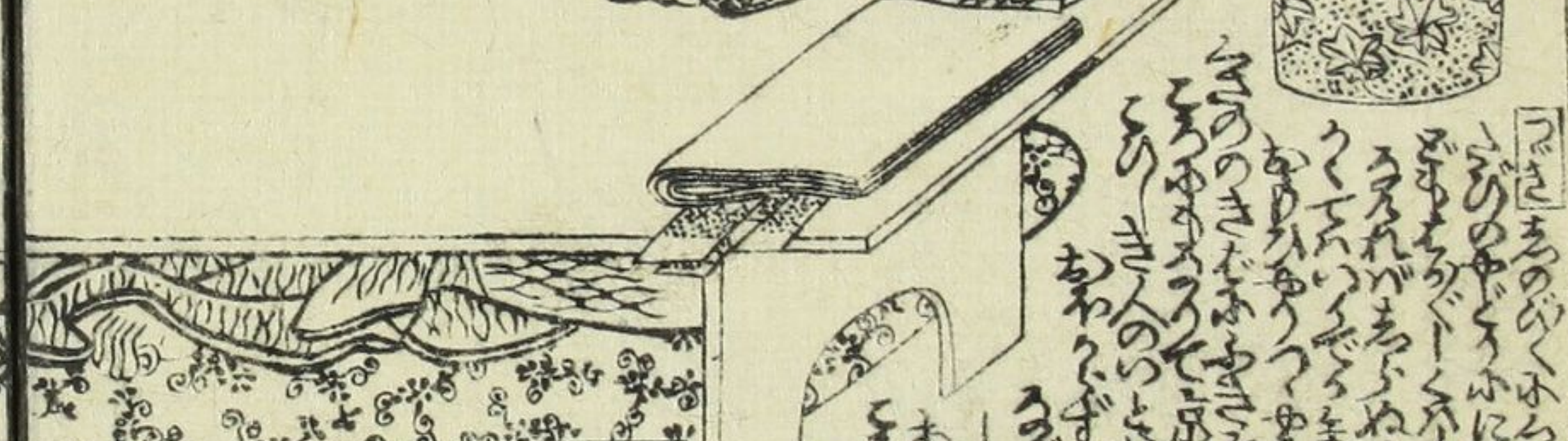
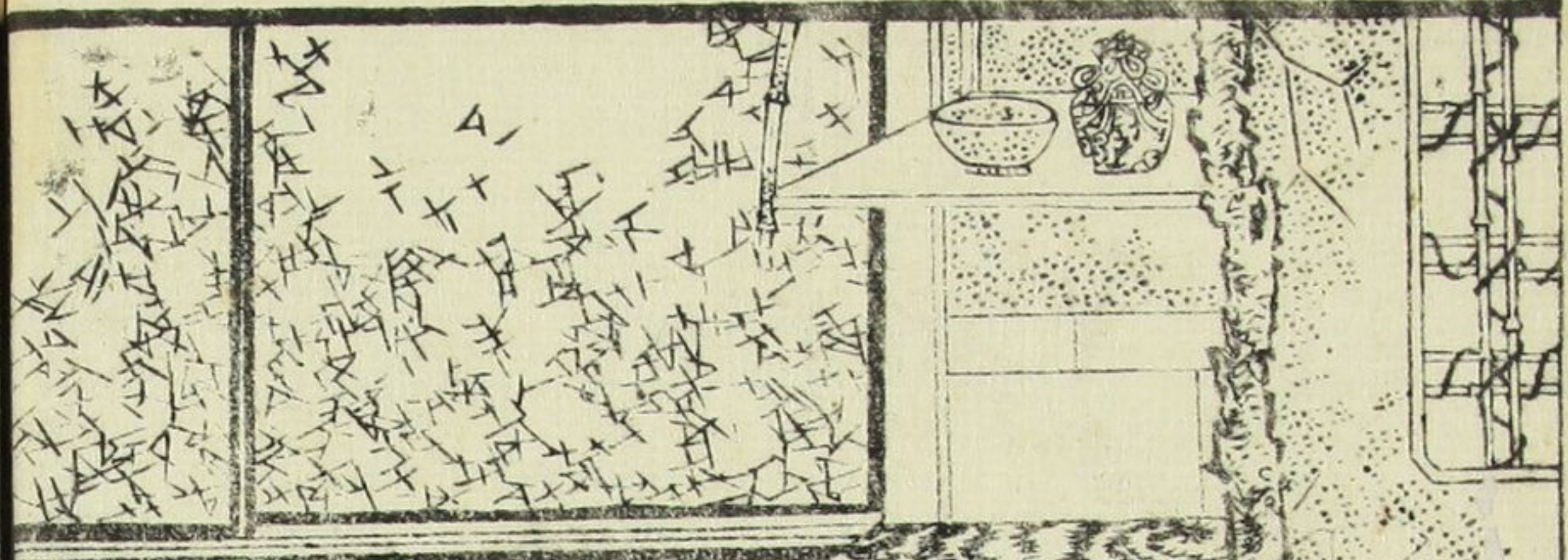
仙女の姿
 花の香
 松の影
 月夜
 静けさ

四の巻

夕陽の影に
 照らしあはれ
 ついでに
 大それた
 ひろい
 とくさ



夕陽の影に
 照らしあはれ
 ついでに
 大それた
 ひろい
 とくさ
 光氏ハ
 夕陽の影に
 照らしあはれ
 ついでに
 大それた
 ひろい
 とくさ
 光氏ハ
 夕陽の影に
 照らしあはれ
 ついでに
 大それた
 ひろい
 とくさ



國貞画の種彦作



淨書千形道友

天保九年戊戌初春新彫
修紫田舎源氏

おせひらさね ねる げん
当来廿五編より二十編 まて用板おかしき所 災厄と程奉奉ふ

緑草仙橋作
佐野渡心敵懸橋 全六冊

柳亭種彦作
歌川國貞画

五雲亭貞秀画
復讐言國茶話支庫 全四冊

五雲亭貞秀画
櫻風呂花半開 全四冊

大海舎金龍作
金花猫婆化生舖 全六冊

歌川國貞画
松風ゆきあふ藤浪 全八冊

四十八劍
美艶仙女香
黒油美



書物錦繪
團扇地紙

問屋

江戸通油町

鶴屋喜右衛門

海



